

# 琉球大学学術リポジトリ

伸びゆく明日の農業者 —第8回FFO大会から— (前号のつづき)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 古謝, 瑞幸, Kojia, Zuiko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/20430">http://hdl.handle.net/20.500.12000/20430</a>

# 伸びゆく 明日の農業者

— 第8回 F F O大会から —

(前号のつづき)

前号ではF F O大会の行事風景と北農及び中農高校代表によるプロジェクト発表の要旨を紹介しましたが、今回もそれに引き続いて「宮古農林高校代表の国仲キヨさん、前里昌子さん」お二人によるプロジェクト発表の要旨を紹介します。

なお発表テーマは「無翼養鶏の研究」であります。

ニワトリの翼は、もともとエサを求めてとび回るために、または、外部の条件から体を保護するために、あるいは、他の動物の襲撃からのがれるためにあつたものと考えられる。

しかし、長い年月にわたって人間に飼いならされたニワトリは、その生活環境はすっかり変り、バッテリー式、ケージ式などの近代鶏舎の中で、生活に必要な最小限度の面積しか与えられていない。更に改良された品種ほど暑さに弱く、亜熱帯の沖縄では、もはや防寒のための翼は不必要である。

このような見地から、ふ化して間もないヒナの主翼を除去することによって、こういった面に何らかの結果が得られるのではないかとその研究に着手した。

**研究の方法として**、まず健全な横斑プリマスロック種のオス6羽、メス4羽を各々同数ずつ2群に分けた。

ふ化後7日目に1群の両翼をハサミで切断した。この無翼の群をA群、そのままのものをB群とし、両群とも同一条件で試験を始めた。

**その結果**、A群はバッテリー舎の中で生活の不応という点は何も見られず、また、夏の暑い季節を通して、B群よりも暑さに対する抵抗を余り示さなかった。

次に、ふ化後1カ月目ごろまでは、A群よりもB群の方がやや発育良好であつたが、2カ月目からは逆にA群の方がよくなった。即ち、4週間目の平均体重はA群が



写真は その発表風景

217.5g、B群が222.7gであつた。しかし2カ月目ではA群が760g、B群が716gになつた。4カ月目ではA群が1.626g、B群が1.536g、6カ月目ではA群が2.370gで、B群は2.184gとなつた。この様にA群は1カ月目ごろまではB群に劣っていたが、2カ月目には逆転してB群を44gも引きはなし、更に6カ月目には186gも引離した。また、6カ月目の合計体重においても、A群は930gも多かった。

しかし、7カ月になると、その差は次第に小さくなって62gになつた。これは、主翼のないA群が6カ月目を最盛期として発育がよかつたことを証明するものである。

**主翼の切断部**は上膊骨のつけ根であるが、この部分は肉利用の点からすれば、むしろない方がよい。したがって、無翼養鶏の利点は、単に鶏の発育が速いということだけでなく、肉の歩留りをよくするものである。

このように無翼養鶏は、鶏肉生産を増大させる手段として適当であると考えられるので、今後もこの研究を続けていきたい。

(まとめ・古謝 瑞幸)